

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2023. 11. 6

No. 701

2023年年末手当 収入動向

本部は、11月2日、収入動向の説明を受けました。以下、報告します。

(営業部より2023年度上半期成績の説明)

(単位:百万円、千トン、%)

扱別	種別	本年実績	本年計画	前年実績	対計画		対前年		
					増減	比	増減	比	
上半期計	収入	コンテナ	50,609	54,352	51,608	-3,743	93.1%	-998	98.1%
		車扱	5,910	5,824	5,692	86	101.5%	218	103.8%
		計	56,520	60,176	57,300	-3,656	93.9%	-780	98.6%
	輸送量	コンテナ	8,724	9,278	8,893	-553	94.0%	-79	98.1%
		車扱	3,880	3,806	3,579	74	102.0%	301	108.4%
		計	12,605	13,084	12,473	-479	96.3%	132	101.1%

(上記収入・輸送量は本年、前年ともに確報値)

1. 収入動向

[対計画△3,656百万円(93.9%)]

・コンテナ

積合せ貨物は、ブロック販売開始遅れに加え、災害運休やBCPに伴う他モードシフトが継続し、△654百万円となった。農産品・青果物は、春先に前年作柄不良だった玉葱が反動増となった一方、今夏の猛暑により北海道の玉葱、野菜類を中心に収量減となり、△498百万円となった。化学薬品及び化学工業品は、価格高騰等による需要の低迷に伴う生産減の影響を受け、それぞれ△438百万円、△375百万円となったほか、食料工業品は、昨年来の製品値上げに伴う販売不振及び飲料のブロック自給率向上等が重なり、△370百万円となった。コンテナ全体では、対計画△3,743百万円(93.1%)となった。

・車扱

石油は、行動制限緩和に伴う移動需要の増加等により、ガソリン及び軽油が堅調となった。車扱全体では、対計画+86百万円(101.5%)となった。

[対前年△780百万円(98.6%)]

・コンテナ

農産品・青果物は、前年作柄不良だった玉葱の反動増により、+179百万円となったほか、自動車部品は、前年上海ロックダウン影響の反動増と半導体不足の緩和が進み自動車生産が回復傾向にあることから、+105百万円となった。一方、化学薬品及び化学工業品は、原料価格高騰による需要低迷に伴う生産減の影響が続き、それぞれ△447百万円、△262百万円となった。また、食料工業品は、昨年来の製品値上げに伴う販売不振及び飲料のブロック自給率向上等が重なり、ビールを除く各品目で減送となり、△198百万円となった。コンテナ全体では、対前年△998百万円(98.1%)となった。

・車扱

石油は、行動制限緩和に伴う移動需要の増加により、ガソリン及び軽油が前年を上回った。セメントは、顧客工場における定修期間短縮により発送増となったほか、石灰石は、前年に着側顧客が大規模定修を行っていた反動増で前年を上回った。車扱全体では、対前年+218百万円（103.8%）となった。

2. 輸送量動向

新型コロナウイルス感染症の行動制限は緩和されたが、原材料費高騰に伴う物価上昇等により国内消費の回復が鈍いことに加え、夏季に大雨による山陽線不通や台風の影響を受けた。

コンテナは、自動車部品が半導体不足の解消が進み自動車生産が回復傾向にあることから前年を上回った他、農産品・青果物が前年に奥羽線不通による減送が発生していたことから本年は増送となった。一方で、化学薬品及び化学工業品は製品値上げと原材料費高騰による需要減の影響を受けて低調に推移したほか、紙・パルプは需要の低迷による生産減により前年を下回った。コンテナ全体では前年比98.1%となった。

車扱は、石油が行楽需要の回復によりガソリンを中心に増送となった他、セメント・石灰石が顧客工場の修繕時期の変更により増送となった。車扱全体では前年比108.4%となった。

コンテナ・車扱の合計では、前年比101.1%となった。

（営業部）

組合・2022年度決算は非常に厳しい結果となり、新たな気持ちで業績回復に向け取り組んでいるが、2023年度上半期の数字が示す通り非常に厳しい状況が続いている。

物価上昇による買い控えや世界情勢等、様々な要因が考えられるが、根本的な原因は何なのか。何か顕著なことが起きているのか。

会社・原材料費高騰に伴う物価上昇を受け、国内消費が鈍化している。鉄道に限らず、荷動きが悪い状況が続いている。

組合・JR貨物の商品作りや列車遅延における対応等、荷主やお客様の要望に応えきれてない部分があると思うが、どのように感じているか。

会社・案件により理由は違う。案件毎に見極めを行い、対応策を考えていく。

組合・中間決算は想像以上に厳しい数字になりそうか。

会社・現在集計中である。

組合・グループ会社の状況はどうか。

会社・こちらについても現在集計中である。

組合・2024問題は非常に関心が高く、JR貨物にとっても大きなチャンスであるが、旅客会社とのダイヤ調整で荷主の要望に応えきれないことも多くあり、JR貨物の要望が少しでも通るよう、国・旅客会社・JR貨物との三者協議等を行い、前進を図っていると思うが、進捗状況はどうか。

会社・現時点では輸送力に余力がある。まずは積載率をしっかりと上げていかないといけない。

組合・「経費節減に取り組んでいく」と聞くが、具体的にどのようなことを取り組んでいるのか。

会社・不要不急の設備投資について、竣工時期の変更等を考えている。

組合・輸送コストが上がっていると思うが、運賃改訂は考えているのか。

会社・検討はしている。

組合・コロナが始まった2020年度から右肩下がりが続き、2023年度に入っても回復する気配が一向に見られない。「ピンチをチャンスに」という言葉があるが、JR貨物のブランド力を失わないためにも、2023年度の下期は非常に重要となるが、営業部の強い意気込みを教えてください。

会社・物流の2024年問題に対する引き合いは増えている。引き続き鉄道へのシフトを訴え、輸送量を増やしていく。

-
- 組合・これからも相当厳しい営業活動が続くと思うが、この窮地を打破するべく鋭意努力して頂きたい。私達は安全安定輸送に努めていく。
- 会社・コロナも5類となり、対面営業も増やしている。JR貨物の都合で断ることが無いように取り組んでいく。

(人事部)

- 組合・前回の交渉で要求の趣旨は説明したが、組合員は昼夜を問わず懸命に業務を遂行している。2023春闘・2023夏季手当では低額回答に終わった。毎月の家計は逼迫し、家庭事情が落ち着かなくなれば、業務においても作業が緩慢になり、安全安定輸送の遂行が出来なくなる。
- 「期末手当は生活費の一部と認識している」と、会社は発言した。会社の状況が厳しい時こそ経営陣の手腕が試され、将来に向け安心して働ける職場づくりを展開してくのが経営陣の責務である。JR貨物に期待し希望に満ち溢れた新入社員も期末手当に大きな関心を寄せている。期待を裏切れば離職も考えられ、会社にとっても大きな損害になる。
- JR貨物が飛躍するためには、若い力が必要不可欠なことは重々承知していると思うが、JR貨物のブランド力を上げるためにも、次回の交渉(会社の考え)では、誠意ある考えを強く求める。
- 会社・本日の内容については上層部にも伝え、次回の会社の考えまでに社内議論を重ねていく。
- 組合・誠意ある回答をお願いしたい。
- 会社・議論を重ねていきたい。
- 組合・次回交渉(会社の考え)はいつか。
- 会社・11月10日(金)となる。

次回交渉(収入動向)は、11月10日(金)を予定しています。

以上